

三浦半島新安浦港出船
テンビン&テンヤとともに大型交じり
走水、大津沖で夏タチ絶好期へ!

撮影・本誌編集部



●2日連続で乗船した常連の川越さんは朝イチから人気を吐き3連続ゲット



●ゆっくりめの誘いと待ち時間を長めに取ったのがよかったそう



●数はのびなかったが良型メインで内容的に満足した人が多かった



●50メートル前後のタナでよくアタった



●こちらはラスト近くに出た当日最大の120センチクラス

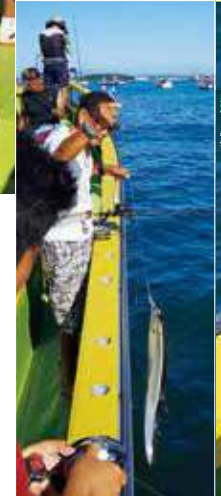


●ノンストップで誘い続けた

前半、沈黙が続いていたテンヤ組もラスト近くにメーターオーバーを連発させていた。
魚探には幅広く反応が映し出されており、魚影はかなり濃い模様。いいほうにスイッチが入ると数釣りも有望だと村上義人船長は予測する。
今後期待十分、夏タチの魅力を十分に味わおう。
(詳細は54ページ参照)



▲ポイントには東京湾中のタチウオ船が集結



▲良型が舞う!



●取材日は食えば良型メインの展開に。テンビン釣りが優勢だった



●ラスト近くにテンヤ組が大型をゲットしていった



▶大型のヒットはバラシも多かった

▼テンビン釣りのエサはサバの切り身



▶テンヤ釣りも同船可能。予約時に伝えよう

●テンヤ有利かと思われたが前半は苦戦。後半になってアタリが増えた



東京湾の夏タチが元気いっぱい。目下の釣り場は走水、大津沖の水深60メートル前後で、タナは海面から45〜55メートルほど。取材した三浦半島新安浦港の義和丸ではショート船で狙っており、大中小交じりでトップ10〜20本前後の日が多いが、このエリアのタチウオは前日は小型の数釣りだったと思えば翌日は大型メインだったりと、前日の状況が当てにならないほど釣れ方が目まぐるしく変化する。
義和丸ではテンビン釣りとテンヤ釣りが同船して狙っているが、取材日は朝からテンビン釣りが有利な展開に。開始からメータークラスが上がり、度々大型にハリスを切られるシーンも。

▶前日は小型が多かったそうだが、この日はほとんどが指幅3〜4本クラスだった



●三浦半島新安浦港・義和丸 村上 義人船長(左)と村上 優輝船長